

「JENESYS2.0」

中国青年メディア関係者代表団第2陣

訪問日程 平成25年10月14日（月）～10月21日（月）

1 プログラム概要

中国国務院新聞弁公室が派遣した中国青年メディア関係者代表団第2陣計69名が、10月14日から10月21日までの7泊8日の日程で来日しました。（総団長：武虹剣（ブ・コウケン）中国国務院新聞弁公室・二局局長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本のメディア関係者との交流をはじめ食文化、ポップカルチャー（キャラクター）、ファッションに関連するプログラムのほか、地域視察等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

10月14日（月）

成田国際空港より入国、皇居二重橋参観、オリエンテーション

10月15日（火）

第1分団：毎日新聞社訪問・交流、㈱モスフードサービス訪問

第2分団：日本テレビ訪問・交流、代々木アニメーション学院訪問、東京タワー見学

第3分団：共同通信社訪問・交流、花王㈱訪問

共通：歓迎会

10月16日（水）

江戸東京博物館見学、クールジャパンに関する自由取材

10月17日（木）

第1分団：キリンビール㈱横浜工場視察

第2分団：㈱サンリオ訪問

第3分団：㈱講談社訪問

午後は、3つのテーマグループ〈第1分団：食文化、第2分団：ポップカルチャー（キャラクター）、第3分団：ファッション〉に分かれ、第1分団は石川県、第2分団は熊本県、第3分団は岡山県へ移動

10月18日（金）～19日（土）

第1分団：石川県政の説明、石川テレビ放送訪問・交流、金沢中央卸売市場朝セリ視察、兼六園見学、近江町市場視察、和菓子作り体験、ひがし茶屋街「懷華楼」散策・レクチャー

第2分団：熊本県政の説明、熊本日日新聞社訪問・交流、熊本城見学、濱田醤油㈱訪問、阿蘇山・草千里ヶ浜見学

第3分団：岡山県政の説明、テレビせとうち・山陽新聞社訪問・交流、吉備津神社参拝、岡山城見学、後樂園見学、㈱ベティスミス訪問・デニム工場視察、児島ジーンズストリート視察、鷺羽山展望台見学

10月20日（日）

（共通）午前：大阪府へ移動、午後：（第1分団）大阪城参観、（第3分団）通天閣参観

（共通）夕方：商業施設視察、歓送報告会

10月21日（月）

関西国際空港より帰国

3 写真＜共通＞

	
10月15日 歓迎会 下川眞樹太 外務省アジア大洋州局参事官の挨拶（東京都）	10月15日 歓迎会 江田日中友好会館会長（右4）、武総団長（右5）と団員（東京都）
10月15日 歓迎会 下川眞樹太 外務省亚洲大洋洲局参事官致辞（東京都）	10月15日 歓迎会 江田日中友好会館会長（右4）、武総団長（右5）和团员（東京都）
	
10月16日 クールジャパンに関する自由取材（東京都）	10月20日 歓送報告会 武虹剣総団長の挨拶（大阪府）
10月16日 关于Cool Japan 的街头自由采访（東京都）	10月20日 欢送报告会 武虹剑总团长的致辞（大阪府）
	
10月20日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）	10月20日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）
10月20日 欢送报告会 报告访日成果（大阪府）	10月20日 欢送报告会 报告访日成果（大阪府）

<第1分団>

	
10月15日 毎日新聞社訪問・交流（東京都）	10月15日 ㈱モスフードサービス訪問（東京都）
10月15日 訪問毎日新聞社・交流（東京都）	10月15日 訪問株式会社摩斯漢堡（東京都）
	
10月17日 キリンビール㈱横浜工場視察（神奈川県）	10月18日 石川県政（国際観光施策）の説明（石川県）
10月17日 考察麒麟啤酒株式会社横浜工場（神奈川県）	10月18日 石川县政府講座（国際観光実施政策）（石川県）
	
10月18日 石川テレビ放送訪問・交流（石川県）	10月19日 金沢市中央卸売市場朝セリ視察（石川県）
10月18日 訪問石川放送电视台・进行交流（石川県）	10月19日 考察金沢市中央生鮮批发市场早市（石川県）

	
10月19日 兼六園見学（石川県）	10月19日 和菓子作り体験（石川県）
10月19日 参观兼六园（石川县）	10月19日 体验制作日式点心（石川县）
	
10月19日 ひがし茶屋街「懷華楼」 茶屋文化に関するレクチャー（石川県）	
10月19日 东茶屋街「怀华楼」关于茶屋文化的讲座（石川县）	

<第2分団>

	
10月15日 日本テレビ訪問・交流（東京都）	10月15日 代々木アニメーション学院訪問（東京都）
10月15日 访问日本电视台・交流（东京都）	10月15日 访问代代木动漫学院（东京都）

	
10月17日 (株)サンリオ訪問 (東京都)	10月18日 熊本県政(くまモン活用によるPR政策)の説明 質疑応答(熊本県)
10月17日 访问株式会社三丽鸥(東京都)	10月18日 熊本县政府讲座(灵活利用酷MA萌的PR政策) 答疑(熊本县)
	
10月18日 熊本日日新聞社訪問・交流(熊本県)	10月18日 熊本城見学(熊本県)
10月18日 访问熊本日日新闻社・交流(熊本县)	10月18日 参观熊本城(熊本县)
	
10月19日 濱田醤油(株)訪問(熊本県)	10月19日 阿蘇山・草千里ヶ浜見学(熊本県)
10月19日 访问滨田酱油株式会社(熊本县)	10月19日 参观阿苏山・草千里之滨(熊本县)

<第3分団>

	
10月15日 共同通信社訪問・交流（東京都）	10月15日 花王㈱訪問（東京都）
10月15日 訪問共同通信社・交流（東京都）	10月15日 訪問花王株式会社（東京都）
	
10月17日 講談社訪問 質疑応答（東京都）	10月18日 岡山県政（観光・繊維産業）の説明（岡山県） 質疑応答
10月17日 訪問講談社 答疑（東京都）	10月18日 岡山县政府講座（観光・繊維産業）答疑
	
10月18日 テレビせとうち・山陽新聞社訪問・交流（岡山県）	10月19日 岡山城見学（岡山県）
10月18日 訪問瀬戸内电视台・山陽新聞社・交流（岡山県）	10月19日 参观冈山城（冈山县）

	
10月19日 後楽園見学 抹茶体験（岡山県）	10月19日 (株)ベティスミス訪問・デニム工場視察（岡山県）
10月19日 参观后乐园 试饮抹茶（岡山县）	10月19日 访问株式会社 Betty Smith・考察牛仔服工厂（冈山县）

4 参加者の感想（抜粋）

- 今回の訪問ではアメ横のインタビューが印象深い。日本の人々と直接交流し、日本人の「食に関するクールな文化」の一面に触れることができ、日本への印象が更に深まった。日本料理のアピールポイントは新鮮・安全であり、食物の鮮度が非常に重視されている。上野のアメ横、石川県金沢市の中央卸売市場、近江町市場のいずれでも、鮮魚は時間の経過とともに価格が下がり、消費者は安心して新鮮な海産物を口にできる。食材の生産、検査、販売にかかる審査はいずれも厳しく、食品の安全性が保たれている。これらは日本社会の誠実性の表れであり、更には管理監督の公平、公正さを反映している。

モスフードサービスへの訪問では、ライスバーガーという商品から、食べ物に地域性とグローバル化を併せ持たせるということを知り、本来は欧米の食品であるハンバーガーに、地域ならではの「味」を加え、食物の刷新を図るという概念は私たちが学ぶべきであると感じた。

メディアに携わる者として、毎日新聞社と石川テレビ放送の訪問は意義深かった。毎日新聞は環境保護への取り組みを先駆的に行った新聞社として有名で、小学生新聞や点字新聞は 76 年の歴史を有すると知り、人に優しい新聞社であると深く感じた。石川テレビ放送はたった 1 チャンネルの小規模なテレビ局だが、豊富な番組構成で、地域住民に寄り添い、地域に根差した放送をしていた。メディアは人々の生活を豊かにし、生活の質を向上させるために存在するべきだ、というメディアのあるべき姿を認識した。中日両国は一衣帯水の関係で、共に手を携え平和と発展の道を歩むべきである。今回の訪問交流活動を通して、我々と日本の皆さんとの友好も深まり、メディアに携わる者として、更に日中両国間に友好の橋を架ける役割を担わなければならない。

- 毎日新聞社と石川テレビ放送の訪問を通し、日本のメディアの特徴、管理方法、取材と編集、報道における過程を学んだ。そして両国メディアの発展プロセス、管理監督、運営上の違いを理解した。

「食」をテーマに「クールジャパン」に関する視察活動を行い、日本の伝統的な料理

には「美・静・和」の要素が含まれていることを体得した。日本料理はいずれも細やかで、色彩にも趣向が凝らされ美しく、食材のハーモニーが重視されていた。単純な食材を、煮る、蒸すなどのシンプルな調理方法で仕上げ、食材の本来の味を頂く。またお皿に盛る際にも、色合いやバランスに配慮し、箸を付ける前に目で愉しむ時間を持たせることで、味に対する更なる期待が高まるのだ。

今回の訪問では、日本人の気配り、細やかさ、時間遵守の概念、秩序意識の高さ、友好の念などが心に残った。信号にはほとんど視覚障害者用の音響装置があり、その配慮に感動した。また秩序についてあげるなら、エスカレーターでは左側に立つ、会計では自然と一列に並ぶ、横断歩道で運転手は歩行者に道を譲る、急ブレーキやクラクションで歩行者を驚かせるようなことは全く無い。また路上にはゴミ箱がほとんど無いが、それでもゴミが散乱することは無く、皆がゴミを捨てずに、分別用のゴミ箱に捨てるか家に持ち帰ることが習慣化されているようだ。時間厳守も訪日活動中に体感した。活動はほぼスケジュール通りに進み、時間を無駄にすることがほとんど無かった。また多くの日本人が非常に友好的だった。大多数の団員が自由行動中に道を尋ねた経験を持つが、日本人は親切に対応してくれ、目的地まで連れて行ってくれた人もいたようだ。一つ一つの細かいことだが、本当に感動した。

我々の目、口、体を通して、周囲の人々に中日友好への期待を伝えていきたい。現在、両国関係は難しい状況にあり、日本側の指導者の言動が両国の友好感情を傷付けることもあるが、大多数の日本人は友好的であると信じている。私たちが共に努力を続けていけば、両国関係には明るい明日が訪れると思う。

- 毎日新聞社と石川テレビ放送の訪問を通し、中日両国のメディア関係者は共に、公平公正の精神のもと、客観的に報道を行っていることを知った。ニューメディアに対しては、両国とも積極的に対応策を検討している。経済と科学技術の発展により、地球のボーダレス化が加速している。この地球村において、我々が直面する課題やチャレンジは共通しており、メディアが両国の交流に果たす役割は非常に重要である。私はメディア関係者として、相手の短所ばかり探すのではなく、その功績を自発的に紹介し、両国間の障害となるのではなく、友好の懸け橋を築いて行きたい。
- 最も印象に残ったこと：
 - ① PM2.5の空気に慣れてしまっている私には、日本の素晴らしい環境がとても羨ましい。これは、政府に依存するだけではなく、まさに国民の自覚と資質と意識により得られるものである。
 - ② 日本人の勤勉で真面目な点。サンリオの質疑応答で、さほど重要とも思えないデータに質問が及んだ際、説明者はすぐさまデータベースから資料を取り出して調べ、その上で正確な内容を回答してくれた。
 - ③ どこにでもキャラクターがいること。来日して私が最も発したひとは、「かわいい」である。食品やビニール袋から政府のマスコットまで、かわいいキャラクターが日本人の価値観を私達に伝えてくれている。
 - ④ 友好的な国民。秋葉原でインタビューをしていたとき、ちょっと困ったことになった。

リュックが壊れてしまったのだ。そこで私は通行人に、バッグを修理できる店かバッグを売っている店を知らないか尋ねた。広島から来たという中学生の3人組が私に代わって他の人に尋ねてくれ、さらには同行してくれて、私は目的を達成することができた。このやりとりをするにも、言葉が通じないという問題があったが、私達は文字を書いたり絵を描いたりして、うまく意思疎通ができた。最後には Email を交換して、私もまた彼女達に、中国に是非来てほしいと伝えた。

帰国後、私はこの自らの体験を人々に伝えたい。日本には、アニメ外交、企業文化、国民の資質、素晴らしい自然等々、学ぶべきことがたくさんある。そしてまた他の人々にも、自ら来て体験してほしいと思う。

- 8日間の訪日日程もまもなく終わろうとしている。私の日本に対する印象は、曖昧模糊としたものから体験を経て徐々に明瞭になってきた。短期間では、日本やその国民、また日本文化に対して十分に理解することは難しいが、それでも自分なりの観点を見出すことができた。

日本のアニメ文化の発達ぶりや、アニメが経済や政治や文化を先導し、共に発展している姿が、非常に強く深く印象に残った。世界に知られたハローキティもしかり、地方で大きな影響力を持つくまモンもしかり、さらには厳粛な歴史ある新聞社に至るまで、皆がかわいいキャラクターを有している。まさに、アニメのないところはない、ユビキタスである。

日本の人々の熱意溢れるおもてなしと率直さ、そして細部にわたる真面目さも、とても強く印象に残った。どこに行っても、受け入れ側は我々のために周到な手配をしてくれており、我々の質問にも一つ一つ真摯に答えてくれ、さらに我々から中国の事情を学ぼうと質問もしてくれた。日本人は意見交換の場ではとても率直であり、もてなしの面では非常に根気強く、そして極めて細やかである。日本側事務局、そしてドライバーの仕事ぶりはプロであり行き届いていて、非常に強く印象に残った。

帰国後、私は今回の訪日の内容を全体的に整理し、文章にして、写真とともに同僚や新聞の読者に紹介しようと思う。彼らに日本の一般庶民を紹介し、多くの日本人が中日友好の交流事業に従事していること、日本には中国が学ぶべき多くのプラスの経験があることを知らせたい。日本の人々が中日関係の改善を切に望んでいることを、中国の読者に伝えたい。

中日の民間交流活動がますます盛んになることを期待し、両国が長きにわたって友好を続け、良き隣人となり、良き友人となることを切に希望する。

- 日本メディアへの訪問やメディア関係者との交流を通じて、3つの点において強い印象が残った。第一に、施設などハードの面である。熊本日日新聞を視察した際、新聞一部を作り上げるために投じている実際の作業員数は非常に少なく、編集者がいるのみであった。しかも、日本では外国製に頼ることなく完全に国産の印刷設備を有しており、作業工程は完全に自動化されていた。少なくともハードの面においては、中国より絶対的に進んでいると感じた。第二に、仕事の環境と雰囲気である。どのメディアにおいても職場環境は完全に開放的で、ミーティングをする者、実況報道をする者、ニュースを編

集する者、電話中の者まで、一カ所の環境にいてそれが相互に邪魔になっていない。これはおそらく日本人の資質と関係していることであり、中国では絶対に不可能なことだ。第三に、メディア関係者の報道に対する理解と職業意識の高さである。数社のメディアの視察を通じて、日本のメディアの職業道德の規律の強さを感じた。報道の客観的な真実をきちんと押さえ、ニュースはタイムリーに、いつでも、効果的に行われている。また、日本のメディア関係者の職業意識の高さも、実際に目にし、体感した。両国のメディア間の交流は今後も継続していくべきであり、マスメディアの力を発揮すれば相互の理解と友好を増強することができ、さらには両国の懸け橋としての役割を持つことができると思う。

○ “クールジャパン”は、3つの面に表れている。

第一に、日本の“クール”はクリエイティブの中に見出せる。若い人々が人とは違う新しさを創造し、個性をアピールすることが、イノベーションの源泉であり原動力となっている。企業は市場のニーズに応えるため、クリエイティブなデザインによって競争力を維持している。第二に、日本の“クール”は、伝統をかたくなに守るところに表れている。企業も個人も、仕事においていささかも手抜きすることなく、さらなる向上を目指しており、伝統的な日本の精神を守り抜くことが、日本がその生命力を維持する重要な鍵となっている。第三に、日本の“クール”は中国と密接な関係を持っている。若者が購入する品にはメイドインチャイナが満ち溢れ、企業も中国マーケットを非常に重視している。中日の産業が相互に補完し、強く結びつき、協力を強化していくことが、ウインウインにつながる選択といえる。

○ 最も印象的だったこと：

10月15日、我々は花王を視察した。花王では、企業の特色や代表的製品などの紹介を受け、さらに化粧品類のプレゼントまで頂いた。花王の企業文化や企業の発展ぶり、熱意などを感じることができたが、最も感動したのは、10月20日(帰国の前日夜)、思いもよらず、そのプレゼントの使用説明書と注意書きがわざわざ送られてきたことだ。細かい点まで行き届いた配慮と同時に、責任感と親切心が伝わってきた。

帰国後に伝えたい情報：

第一に、日本の経済、社会、文化の発展の理念である。特に、価値観、生活を愛する心、流行の追求、環境保護、秩序の遵守、法律の畏敬などである。第二に、日本人々の友好の心である。8日間の日程中、外務省、日中友好会館、そして業務関係者に至るまで、心を尽くし責任を全うし、すべての事柄が細かく手配されていて、どれも整然と秩序立っており、どこに行っても親しみある笑顔と、謙虚で礼儀正しい挨拶を受けた。第三に、中日両国国民の相互交流の意義である。今回の活動から見ても、中日の関係はさらに一步理解を深め、交流と信頼を深めた。双方が協力し、ともに利益を得る必要性を改めて感じた。中日関係が、各方面の関係者の共同の努力によって、より良い軌道に乗っていくことを信じている。

○ 今回の訪日では、3社のメディアを訪問し、専門的な分野での収穫も大きかった。主た

る 3 点を述べる。

① 日本のメディアも中国のメディアも、記者や編集者の評価に対して同じような難しさを抱えており、基準を計量化することは容易ではない。共同通信社では、記者は 5～10 年の地方支局での業務経験を積みねばならず、さらにそこでの業務態度によって、本社に戻った後のポストが決まるとの説明を受けた。社員は半年ごとに報告と面接を受ける。つまり、半年分の業務総括をするのであり、面接の結果によって給与総額の 20% の範囲内で給与が増減する。非常に参考になった。

② 東京の講談社では、“有益で且つ面白い書籍をつくる” という企業文化を学んだ。まさに日本では、講談社と同じような多くの出版社が、有益で面白く対象を的確にした書籍や雑誌を大量に出版しているからこそ、日本人の年平均読書数が 40 冊以上もあるものであり、これは中国人の 10 倍に相当する。こうした理念は学ぶ必要がある。

③ 岡山県の山陽新聞社では、人口 70 万人の都市で 43 万部の新聞が発行されていることを知った。これほどまでの読者率は、中国では、紙の媒体が激減しているマスメディア環境においては全く考えられないことである。文化や閱讀の習慣以外にも、一連の“NIE” プログラムの実施が読者を保持しているという点が、非常に参考になった。